

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称	令和2年度 第1回豊島区 生活安全協議会 セーフコミュニティ推進協議会 総合高齢社会対策推進協議会
事務局 (担当課)	政策経営部セーフコミュニティ推進室長 総務部治安対策担当課長 保健福祉部総合高齢社会対策推進室
開催日時	令和2年7月27日(月)午後2時00分～午後3時00分
開催場所	としま区民センター 多目的ホール
議 題	1 豊島区長 挨拶 2 SDGs 未来都市の選定について 3 繁華街における感染拡大防止と環境浄化の一体対策について 4 感染症を踏まえた災害時避難体制について 5 感染症を踏まえた高齢社会対策について 6 意見交換 7 閉会
提出された資料 等	資料1 SDGs 未来都市の選定について 資料2 繁華街における感染拡大防止と環境浄化の一体対策 資料3 感染症を踏まえた災害時避難体制(避難のあり方) 資料4 感染症を踏まえた高齢社会対策について 資料5 これからのまちづくりについてのご意見 資料6 委員名簿 参考資料1 今年度のセーフコミュニティの活動について 参考資料2 学校の安全(インターナショナルセーフスクール)の活動報告について
公開の 可否	会 議 <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録 <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	会 長 区長 高野 之夫

<p>(順不同、敬称略)</p>	<p>委員 【区内 団体】</p>	<p>池袋西地区環境浄化推進委員会委員長 外山 克己  豊島区高齢者クラブ連合会会長 (同上)  豊島区町会連合会副会長 (第3地区) (同上)  池袋西口駅前環境浄化推進委員会委員長 加藤 竹司  池袋東地区環境浄化推進委員会会長 服部 洋司  豊島区町会連合会会長 田中 幸一郎  NPO 法人池本ひろば理事長 (同上)  豊島区観光協会名誉会長 齊木 勝好  豊島産業協会会長 (代理) 井本 健司  豊島法人会会長 南山 幸弘  豊島区民生委員児童委員協議会会長 寺田 晃弘  長崎第一地区民生委員児童委員協議会会長 (同上)  豊島区障害者団体連合会会長 磯崎 たか子  豊島区青少年育成委員会連合会会長 木崎 茂雄  豊島区保護司会会長 高埜 秀典  豊島区医師会会長 平井 貴志  豊島区歯科医師会会長 高草木 章  豊島区薬剤師会会長 佐野 雅昭  豊島区町会連合会副会長 (第4地区) 重田 軍司  豊島区町会連合会副会長 (第6地区) 池田 好雄  豊島区町会連合会副会長 (第7地区) 田中 英治  豊島区町会連合会副会長 (第8地区) 市川 幸雄  区民ひろば仰高運営協議会会長 関根 春夫  区民ひろば南大塚運営協議会会長 竹野 康二  セーフコミュニティ対策委員長 (高齢者の安全) (同上)  区民ひろば朋有運営協議会会長 石川 宜司  NPO法人富士見台ひろば理事長 足立 菊保  NPO法人おおきな木理事長 直井 浩  NPO法人ひろばさくら理事長 本山 美子  巣鴨地区民生委員児童委員協議会会長 松浦 初枝  池袋東地区民生委員児童委員協議会会長 佐々木 敬彦  高田地区民生委員児童委員協議会会長 岡田 実  長崎第二地区民生委員児童委員協議会会長 福田 房子  豊島区池袋食品衛生協会会長 西岡 孝文  巣鴨防犯協会会長 吉井 公明  池袋防犯協会会長 岡部 俊夫  豊島区町会連合会副会長 (第2地区) (同上)  目白防犯協会会長 森田 晴久  池袋母性協会会長 波多野 まつ江</p>
------------------	---------------------------	--

	<p>池袋組織犯罪根絶協会会長 菅澤 省吾  目白母の会会長 田島 芳子  日本ガーディアン・エンジェルス理事長 小田 啓二  豊島防火防災協会会長 関根 靖俱  池袋防火防災協会会長 恩田 幸正  豊島消防少年団団長 鈴木 謙二  池袋消防少年団団長 西野 浩通  としまNPO法人推進協議会代表理事 柳田 好史  池袋西口商店街連合会会長 谷口 政隆  豊島区体育協会会長（代理） 小林 幸栄  豊島区スポーツ推進委員協議会会長 寺門 孝史  豊島区ボーイスカウト連絡協議会会長 鈴木 順一  東京都宅地建物取引業協会豊島区支部支部長 浅原 賢一  東京都宅地建物取引業協会豊島区支部社会貢献委員長 深山 大介  東京都建築士事務所協会豊島支部支部長 小山 清弘  全日本不動産協会豊島・文京支部長 荻原 武彦  巣鴨交通安全協会会長 伊藤 勝利  池袋交通安全協会会長 山本 昇  目白交通安全協会会長 織本 真一郎  【区内  団体】 巣鴨交通少年団団長 西脇 明  池袋交通少年団団長 今田 充保  目白交通少年団団長 横田 喜廣  豊島区立中学校PTA連合会会長 御代 恒  第7地区青少年育成委員会会長 白熊 千鶴子  第11地区青少年育成委員会会長 山本 道子  池袋四丁目町会会長 平田 光子  公募委員 （同上）  豊島区肢体不自由児者を育てる会役員 京谷 光子  目白地域交通安全活動推進委員協議会会長 唐澤 和子  東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会会長 （同上）  としま女性会会長 堀 恵子  NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長 栗林 知絵子  女子栄養大学 広報戦略室付次長 河野 美穂  大正大学 地域構想研究所事務部部长 井上 隆信  帝京平成大学 池袋キャンパス総務課長（代理） 山上 哲郎  豊島区民社会福祉協議会事務局長（代理） 広瀬 孝一  豊島区シルバー人材センター事務局長 陣野原 伸幸  社会福祉法人フロンティア理事長（代理） 若林 弘司  公募委員 宇田 みさ保</p>
--	--

	<p>公募委員 松原 明美  公募委員 平井 千鶴子  公募委員 柴田 泰孝  公募委員 石川 サチ子  公募委員 三矢 香織  セーフコミュニティ対策委員長（子どものけが・事故予防） 青木 輝彦  セーフコミュニティ対策委員長（障害者の安全） 長谷川 則之  セーフコミュニティ対策委員長（児童虐待の防止） 高田 慶子  セーフコミュニティ対策委員長（DVの防止） 吉祥 眞佐緒  セーフコミュニティ対策委員長（自殺・うつ病の予防） 田中 洋平</p>
委員 【官公 庁】	<p>警視庁巣鴨警察署長（代理） 森 伸行  警視庁池袋警察署長（代理） 久保川 慎治  警視庁目白警察署長（代理） 木内 昭朗  東京消防庁豊島消防署長（代理） 秋山 正幸  東京消防庁池袋消防署長 永野 義武  東京都第四建設事務所所長 永井 伸芳</p>
委員 【区】	<p>副区長 齊藤 雅人  副区長 高際 みゆき  教育長 金子 智雄  危機管理監 今浦 勇紀  保健福祉部長 田中 真理子  池袋保健所長 植原 昭治</p>
区職員	<p>企画課長 山野邊 暢  セーフコミュニティ推進室長 櫛島 匠  防災危機管理課長 星野 和也  治安対策担当課長 黒澤 昌史  総合高齢社会対策推進室長 直江 太</p>

## 【1 豊島区長 挨拶】

## (司会)

令和2年度豊島区生活安全協議会及びセーフコミュニティ推進協議会並びに総合高齢社会対策推進協議会の3協議会を開催します。本来であれば、新委員の皆様をお一人ずつご紹介の上、一言ご挨拶を頂きたいところですが、時間が限られているため、資料6の委員名簿をお配りすることでご紹介に代えさせていただきます。それでは、開会にあたり3協議会の会長である高野区長から挨拶を頂戴します。

## (区長あいさつ)

皆さまこんにちは。久しぶりに、皆様のお顔を拝見することができました。このように、人の集まる会合は開催してはいけないという、大変厳しいコロナ拡大感染に向けたそれぞれの取り組みが長期化していました。非常事態宣言後、コロナ患者数が、日に日に増加するような状況ではありますが、この開催にあたっては、コロナに負けずに、また、コロナをやっつけるという様な思いを込めながら、今日の会合を決断しました。どうか、そういう意味でも、お一人お一人ご注意をいただきたい。現在、我々豊島区がどう取り組むか、大勢のマスコミに注目をされています。豊島区方式ともいえる取り組みをしたい、7月1日に、豊島区内で初めてのクラスターが発生し、それがホストクラブであり、大勢の感染者が出たということで、新宿を上回る数が出た。新宿を上回ったのは1回だけだが、マスコミでは、新宿に次いで池袋というような形で、夜の街対策を放送した。歌舞伎町のアーチの、次に出るのが、ロマンス通り、あるいはえびす通り等々のアーチが放送される。そうすると、そこで大勢のコロナ感染者が出たように印象付けられ、このまま黙っていれば、夜の街、怖い街、池袋ということに舞い戻りかねない状況になってしまう、そんな思いで、地元の方々中心に、動き出している。我々も、思い切った対策をしなければいけないということで、昨日から、池袋の繁華街からコロナ感染者を出さずに、安全安心なまちをつくりましょうというポスターを、地元のボランティアの方々約100名を始め、区の職員も88名、そして、池袋警察当局から30名の応援をいただき、ポスターの貼り付け作業がスタートしました。残念ながら、ちょうど作業が始まったら雨が降ってきて土砂降りになりました。この土砂降りの中でも、皆様のご協力で、かなりの数が貼れたのではないかと考えている。併せてステッカーを貼る。7つの宣言について、約束の宣言をしたお店には、このお店は安全だというステッカーを貼るようにした。これは、東京都も同様の形をとっており、東京都と豊島区、両方で貼るような形になっている。これを、まず、この池袋繁華街のイメージを変えていかなければいけないという思いで、昨日からスタートした。今日も、この会議が終了後、私たちも、池袋の街に出て行って、ご協力をお願いをする。是非、今日お越しの委員の皆様方にも、池袋につながりのある方、また、直に池袋でそれぞれお仕事をされている方を含めて、是非ご協力を賜りたい。また、この7つの宣言の中の最後に、何か体調が悪かったら、直

ぐに、保健所にご連絡ください。とあります。本日、医師会の会長もお越しになられているが、医師会にご協力を賜りながら、PCR検査を受けてもらうということを、今、保健所と詰めているところです。

また、区の取り組みはコロナだけではありません。今回、豊島区はSDGs未来都市に選ばれました。聞きなれないものであろうかと思いますが、国際サミットでは、全世界共通の認識として、17項目を挙げており、これらの目標を十年後には達成する都市を作り上げる、それがSDGs未来都市であります。後ほど詳しく説明しますが、私たちの今まで取り組んできたことが、高い評価をいただき、全国で70数自治体が名乗りを挙げ、途中審査で33自治体選ばれ、さらに、それから10自治体がモデル都市として、内閣府の指定を受けることができました。安部内閣総理大臣からもSDGsモデル都市を取得したことで、大変ご丁寧な激励のメッセージもいただいている。これは東京で初めてのことであり、このようにSDGs未来都市、モデル都市にこの豊島区が選ばれた、これがまた一つの大きなきっかけになり、今まで豊島区は、セーフコミュニティ、これも日本で5番目、東京で初めてであった。さらには、昨年は東アジア文化都市、この開催一年間、日本を代表して中国韓国の文化都市との交流も見事に成し遂げた。さらには、今年度このような形で、SDGs未来都市のモデルになったということです。本当に私たちが目指す、国際アート・カルチャーとSDGs未来都市と、10年後には、それを仕上げるといふ、我々にとっても素晴らしい指標をいただいたものと感じ、これらすべてオールとしまで、今日お集まりの、3つの協議会の皆様が主体となって、推進していきます。これらについても、後ほど、ご報告とご意見を賜りたいと感じています。

今、新型コロナウイルス感染症との戦い、そして、さらに新しい、目指す、豊島区の将来都市像、皆さんと共に歩ませていただきたいと思います。

以上、冒頭にあたり、ご挨拶とさせていただきます。それぞれの分野で担当から、説明を致します。その後、皆さんから、頂戴した様々なご意見を区政に活かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 【2 SDGs 未来都市の選定について】

説明：企画課長（資料1）

## 【3 繁華街における感染拡大防止と環境浄化の一体対策について】

説明：危機管理監（資料2）

## 【4 感染症を踏まえた災害時避難体制について】

説明：防災危機管理課長（資料3）

## 【5 感染症を踏まえた高齢社会対策について】

説明：総合高齢社会対策推進室長 （資料4）

（司会）

それでは、これまでの議題を含め、皆様と意見交換をさせて頂きたいと思います。ここからの進行は区長をお願いします。

## 【6 意見交換】

（司会）

これからのまちづくりについてのご意見という形で、皆様方から事前に、アンケート形式で意見をいただいています。その中で、本日出席をされている方から、ご意見を改めて頂戴したいと思っています。ご意見をお願いします。

（A委員）

先程のお話にもありましたけど、基本的には、我々高齢者の場合は、人と会って、話をして、そして美味しいものを食べて、運動も時にはやると、そういうことが、実は、最近、平均寿命よりも健康寿命が延びてきているという話、皆さんお耳にされていると思います。その根底に立ってですね、それをやる際、現在、残念ながら、自粛生活を余儀なくされているということで、どんな風にしたらいいのかという中で、我々は日ごろ、見守り活動をやっております。その中で、やはり声掛け、それを、スマートフォンを使ったり、あるいは電話を使ったり、っていうことで、特に、通常はPTAの皆さんが、自分のお子さんの安全確認をやる際に、スマートフォンを使っておられると思うが、そういった仕組みを、ある意味では、高齢者にも、ちょっとやってみてはどうかだろうか。それで、ある程度一定の時間に声掛けをやっていくことで、ああ、自分は誰かに見ってもらっている。あるいは、一人じゃない。安心というものを、皆さんが持ってもらえるのであれば、非常にいいのではないかと、そんな風に考えて意見を述べさせていただきます。

（司会）

ありがとうございました。これらのお答えは、それぞれの担当の部課長が後ほど回答をさせていただきます。それでは、別の委員からもご意見を頂戴したいと思います。

（B委員）

この区民センターの隣に、ハレザ池袋が完成して、街が明るくきれいになりました。街がきれいになり、イメージだけでなく、実際にキャッチセールス等も道を歩かなくなり、女の子たちも、安心して、街を散策するようなイメージになっています。街がきれいになっていくのは、やはり、分別が無いことが似合わない地域になるのではないかと

思います。スケートボードなんかをやったら白い目で見られるし、そういう街になるのかなと改めて実感しました。昨年、街のイメージが変わったので、これからはソフト面を充実させるために、やはり、区民が安心して暮らせるまちづくりをするためには、やはり、健康でいることが大事だと思います。もともと高齢者も多く、最近では子供たちも、非常に増えてきましたので、そのために、医療や介護、それから保健福祉を充実させていくということで大変暮らしやすい社会になるとと思います。保健福祉計画や健康カード等のツールを作っていくことも大切なのですが、それを生きた形で、現実のものとして行くためには、行政だけではなかなか辛いところに手が届くのは難しいと思います。

3師会の人間として、医療関係団体や介護関係者、さらには基幹病院等、密接な連携を持って、ケースに応じたきめ細かい連携が必要になっていきます。行政にはその舵取りをしていただければと思います。限られた予算の中で、形だけでなく、本当に実績のある、実のある施策をするためには、それぞれの業界団体がいかにお金を使わずに地域のために何ができるかを考えて実践するということが必要ではないかなと思います。豊島区の3師会は、3団体ともに公益社団法人となっております、こういう地区はなかなか珍しいのですが、公益団体とは利益を追求する団体ではありませんので、こういった民間の活力を有効に活用していただければ、行政からは後押ししていただければ、我々は頑張りたいと思います。新型コロナウイルスの蔓延で、さまざまな活動が自粛を余儀なくされていますけど、こういった時だからこそ、それぞれの業界団体がお金を使わなくてもできること、それを積極的に考え実践する必要があると思います。歯科医師会は、4月から開設されたPCRセンターの協力を買って出ました、全国でも歯科医師会が関わったことはないと思います。関わった会員達は、感染予防を徹底しながらも、コロナ禍になった以上、その関りに誇りを感じて働いています。多くの地域の、多くの会員の方が、地域の為に誇りをもって活動していると思いますので、予算が無くても上手に民間の活力を有効に活用していただければと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

#### (司会)

ありがとうございます。豊島区のPCR検査、本当に主力になって医師会、歯科医師会とも、大変なご協力を頂いてこの検査を進めております。この場で、保健所、そして医師会、歯科医師会にご尽力いただいていることをご報告させていただきます。こちらについても、お答えは後ほどさせていただきます。それでは、別の委員からもご意見を頂戴したいと思います。

#### (C委員)

障害者、それから高齢者、一番大変な人たちが暮らしていける良いまちとのことで、建物ばかりを作るということではなくて、やはり、心のバリアフリーとか、それから安



全であることが第一だろうと思っています。今回の安心安全については、本当に豊島区とてもよくやりました、少しずつ色々なところで、恩恵を受けております。ますます、こういったことを続けていっていただけたらと、嬉しく思っております。また、人と人とのつながりをもっともっと広げていきたいと思っております。

(司会)

それでは引き続きまして、別の委員からもご意見を頂戴したいと思います。

(D委員)

まちづくりについてというのは、恐らく、今まで区でも検討され、実施をされてきていることであろうかと思えます。なかなか、新しい目線というのは難しいと思いましたが、区民ひろばは、自主運営をするということを進めております。ただ、問題は、まだ、実施しているひろばは半数に満たないというような状況があります。結局、なかなか自主運営とか民間、あるいは住民主体というのが、非常に難しいのだろうと、そういう風を感じているわけです。ただ、地域のことを一番知っているのは、やはりそこに住んでいる人々でございます。その人たちが、自分の街はこうありたい、こういう風に住みたいという、そういうようなものが中心になれば、その地域はいい地域になると思えます。これは、ひろばを運営しておりますと、皆さんやはり、みんな考え方は違いますし、地域の特性もあるわけですが、皆さんお持ちになっています。こんな風になったらいいね、とか、こうありたいとか、ただ、それが雰囲気にならない、それから、そういったところをどうしていいか分からない、っていうようなところで、今の体制でまあいいか、みたいな感じになっているのではないかと思います。実際に、住民主導みたいなことでやろうとすると、色々問題が考えられますし、ある程度しないと、それこそ10年経っても上手くいかないというような状況になりかねない、これはもう、関連している皆さん一生懸命やっておられるけれども、そういう状況ということでございますので、もし、そういうふうなことを試みようとするのであれば、かなり、覚悟を決めて取り掛からないといかんのではないかなというふうに思います。また、この高齢者と子育てということに関しての意見は、これは当然だよ、と、言われるのではないかと思います、書いた感じになっております。色々な申請の内容を、全部デジタル方式でやるとのこと、もちろん郵便でもいいんだ、ってことで、最初私もやってみたのですが、なかなか難しいってことで、なんか機器もそろっていないと、私のスマートフォン、対応していませんってはじめちゃいまして、まあ、そんなことで、なかなか高齢者がデジタル化についていくのは難しいです。現状、先程もちょっと、スマートフォン、あるいはタブレット等、配布したとか、あるいはそういった物を活用したというような、あったのですが、それ自体非常に難しいという感じ。我々も事業で、NTTの協力を得て、何回かスマートフォンの研修等を行いました。で、毎回満員でございますけれども、なかなか帰る時

にわかった、と言って帰る方は少ない、そういうこともありまして、この辺のところは、実態はものすごく大変なんじゃないかというふうに感じております。そういうことで、もう少しこれ、手を入れていただければなと感じています。子育ては順番といいますか、小さい子供たちが沢山いるというのは、その子供たちが大きくなって、豊島区の中で中樞になっていく、将来は、その子供たちが担ってくれる。そういうふうな形になるわけですから、是非、その辺のところを考えて頂きたいと、いうふうに思って書いたものでございます。雑駁ではございますが、そんなところです。

(司会)

ありがとうございます。それでは、別の委員からもご意見を頂戴したいと思います。

(E委員)

私が一番、気がかりにしておりますのは、この、コロナのこの時代に、もし、3・11のような大きな地震が東京に襲ってきた時に、2つの大変なことが、一緒になった際、果たしてどうなるのか。避難所へ避難者が押しかけてきた時に、私たちが何ができるだろうか、町会長さんと皆さんで常に考えております。先程、新型コロナウイルス感染症対策をふまえた避難体制ということで、段ボールを使ったこういったやり方や、シートを活用してということをお話を聞いておりましたが、この前の3・11の時に、避難所の学校の中に、押し上げてくるような形で、大勢の避難者が、津波のように来ました。そして、その後に、ご近所から火事があり、大騒ぎをした経験がございます。果たして、皆さんが一緒になった時にどうなっちゃうんだろう、自分自身もどうなってしまうのだろうかということを、普段から気がかりにしています。素人の考えではございますけれども、なにか、どんな風に解決したらいいのでしょうか。皆さんからいいお話を聞かせていただけたらと思って、今日は参加させていただきました。

(司会)

ありがとうございました。後ほど、まとめてお答えをしたいと思います。次に、別の委員からもご意見を頂戴したいと思います。

(F委員)

常日頃、やはり自転車対策について、頭から離れない部分があります。生活の中でも、自転車利用の安全対策として、そういったことを中心に考えていることが、多いです。今、私の中で一番話題になっているのは、中高生の自転車に対する、ルール、マナーに対する認識というものについて知りたいなというのがございます。ボランティアを含めて、行政の皆さんも、色々そこでご指導していただきますけれども、主役である中高生が、どう考えて、どう行動して、どう思っているのか、そういったことをやはり知らな

いことには、なかなか折り合いがつけられないのではないかと思います。比較的最近なんですけれども、妊婦さんからスピードの出した自転車に煽られて非常に怖い思いをしたということを伺いました。ですから、中高生が、妊婦さんに対する意識がどの程度あるのか、高齢者の周りを猛スピードで煽られると高齢者の方がどんな思いになるか、そういったことについて、年を取るということはどういうことかとか、おなかに赤ちゃんのいる人の体というものはどういうものなのか、自分もかつてお母さんのおなかにいたのですから、そういうことをイメージしてみる、考えてみるというものも、今の時代のスピード感に対して、立ち止まって考えていくことが重要ではないでしょうか。中高生にしてもイメージを持ってもらう。年を取るというのはどういうことなのか、自分だってやがては年を取るんだけど、自分の身近にいる、家族の中にいる高齢者が、どういうことになっているのかについて、もう少しつぶさに観察をし、理解をし、だったら自分はこういうことがしてあげられるっていうふうなことを考えるには、あまりにもスピードが速すぎる時代であって、また、個の時代であって、そういうものに、道徳的といえますか、情緒面でいえますか、置いてきぼりを、食ってしまっているっていうような気がしてなりません。それで私は、ここに書かせていただいたのは、その中高生とディスカッションを重ねていきたいというふうに書きました。今現在は、コロナの大変な年度において、学校では本当に授業のカリキュラムが大変だと聞いておりますので、今の時点では厳しいかもしれません。でも、自転車の社会は消えないでしょうから、自転車も車の仲間なんだと伝える前に、自転車についてもっと子供たちと、色々なことを考えて、ディスカッションして何を考えているのか、どうして欲しいのかということを含めて、接触していきたい。こういったことを理解していくのは、10年後でも20年後でもやっぱり必要なことなんじゃないかなと、世代間の隔絶をできるだけ近づけていくことが、必要なんじゃないかなっていうふうに書いてみました。それからもう一点、高齢者にやさしいまちづくりについて、私自身も高齢者世代の真っただ中におりますけれども、やはり社会に貢献できる、地域に貢献できる、ということの生きがいですね、高齢者の方っていうと、やはり元々皆さん遠慮深くって、お荷物にならないように、家族の迷惑にならないように、地域の皆様にご迷惑をかけないようにということで、今の年代の方々は非常に思慮深い方が多いだろうと思います。ですけれども、人間、若い時があって、やがて必ず老いるわけですから、老いて、どうありたいかってことは、人並み考えた時に、やはり地域に貢献できる自分でありたいということを考えました。そういう生きがいがありましたら、もう少し、胸を張って、背筋を伸ばして生きていけるのではないだろうかということで、色々な活動が今計画されていますが、それ以後も、一つ、地域社会の歯車になっているという意識を持てるような豊島区であってくれたらと考えました。どんな些細なことでも、例えばこれが、社会の役に立っているっていうふうに感じる事ができたら、高齢社会は、もう少し呼吸のしやすい、風通しの良い社会になるのではないかとということで、書かせていただきました。

**(司会)**

ありがとうございました。まだまだ、大勢の方のご意見等々を頂戴したいところですが、次のご意見を最後にします。

**(G委員)**

今日の資料の中に、環境浄化作戦の報告があるので、敢て申し上げることはないと思いますが、発言をさせていただきます。1か月位前に、池袋西口の西側で、チラシに書いてあるとおりですが、今日も、この会議に来る途中に池袋繁華街をよく見てまいりました。すると、3人のグループ、男性が4人、女性が3人、女性の方が飲酒をしている。それから4人組が1組、それも女性が1人いました。それから3人組。合計18名位ですか、後は将棋です。パラパラ雨が降っているのに段ボールを敷きまして、雨の下で将棋をやっておりました。まあ、将棋のほうは比較的静かなのですが、立ち飲みで、昼間から飲酒をし、で、飲酒した後は空き缶を植え込みの中に捨てて行く。どう見ても、いい街、きれいな街という雰囲気ではないものですから、前から気にはなっていました。我々の防犯活動は、住宅街が多いものですから、なかなかこの繁華街地区に踏み込めない。そう言ったことを申し上げて、どうしたらいいものかなということをご意見として出させていただきます。以上です。

**(司会)**

ありがとうございました。先程、皆様方にご説明をさせていただきましたが、この池袋西口は、G委員が言うように、まさに池袋の顔の場所です。今のご報告のとおり、この池袋のイメージを悪くしているということです。同様のご要望について、皆さんから本当に強い要望を頂いております。明日10時から、この西口の環境浄化決起大会の開催をいたします。今、G委員のご意見にあったことを、しっかりと受け止め、この大会を成功に終わらせ、池袋駅前が本当に爽やかな駅前になるようにして参りたいと思います。それでは、色々と沢山のご要望や、ご意見等々があり、お答えできない部分もあろうかと思いますが、ここで、副区長にバトンタッチをして、皆さんのご意見等々について、出来る限り、お答えをしたいと思います。

**(司会)**

皆様ご意見ありがとうございました。それでは、順番に一言ずつ、区の理事者からお答えさせていただければと思っております。まず、A委員から頂いたご意見につきまして、お答えをさせていただきます。

**(回答者)**

A委員からフレイルにつきましてご意見をいただきまして、本当にフレイルの予防には、身体を動かすことと併せて人と交流することが大変大事だと思っております。会えないのであれば、電話やメール等を活用していくことも大変に有効だと考えております。早々に考えてまいりたいと思っております。

(司会)

続きまして、B委員から頂いたご意見につきまして、お答えを申し上げます。

(回答者)

B委員からは、歯科医師会から積極的に保健行政に参加していただけるという、温かい言葉を頂きました。先程、区長からもご説明がありましたが、医師会・歯科医師会よりPCR検査に積極的に参加いただいております。大変感謝しているところでございます。このPCR検査については、区から医師会に依頼をし、医療従事者を出していただくという形で始めたものになりますが、今現在は、医師会の方に運営を委託しているという状況でございます。このように、行政機関だけでやっていくというのは限度がありまして、ご指摘の様に、3師会を始めとした、医療関係者や介護関係者、病院の方々との綿密な協力が不可欠でございます。区としては、しっかりコミュニケーションを取って連携を図っていきたいと思っております。何かご意見がありましたら、いただきたいと思っております。

(司会)

続きまして、C委員から頂いたご意見について、お答えを申し上げます。

(回答者)

高齢者や障害者を分け隔てすることなく、役割を区別することなくというご意見については、先程、SDGsのお話がありましたが、誰をも受け入れ、誰からも受け入れられるという社会の構築、これに尽きるのではないかなというふうに思いました。また、そういった、自分自身のこと、あるいは他人のことを、どうやって思いやれる心を育てるかということは、日常的な地域の活動の中で、地域の皆様、それから行政が、一緒になって、そういった心を育てていく。そういった活動が必要なのではないかと思っております。今後、一層そういった活動に力を入れてまいりたいと思っております。

(司会)

続きまして、D委員から頂いた、沢山のご意見について、一つ、住民主体のまちづくりの観点から、私の方から一言、お答えを申し上げたいと思っております。豊島区は、自治基本条例を持っていますけれども、住民主体のまちづくりというのは、まちづくりの基本だと思っております。区民ひろばも、そういったことを目指して運営をしていただい

ると思っております。これは、自分たちが作ったルールは、自分たちがつくったからこそ守れることであり、施設も自分たちで管理しているからこそ大事にするのだと思います。なかなか難しい問題で、委員のおっしゃるとおりなのですが、これは色々な課題もあります。従いまして、一步一步、是非、D委員のお智恵を拝借しながら、これからも、住民主体のまちづくりが、より実効性を伴うよう、区としても努力をしてみたいと思います。今後ともよろしくお願ひしたいと思います。続きまして、E委員からいただきました、ご意見に関して、お答え申し上げます。

**(回答者)**

先程、簡単にではございますが、分散避難の考え方についてご説明をさせていただきました。これまで区の施策は災害が起きた後の避難所運営をメインに重点化してまいりましたが、今後は、先程お話をさせていただいた、分散避難や、災害が起きる前の事前の備えというものにも力を入れて、災害対策に取り組んでいきたいと考えております。また、避難所での感染症対策につきましても、救援センターの感染症対策マニュアルというものを作成しました。今後、10月以降、地域の皆様と訓練を重ねていく前に、現在、35箇所全ての救援センター、避難所で職員向けの訓練を実施しております。まずは、区職員の訓練を重ね、区職員のレベルアップをしてから、地域の皆様と一緒に訓練が出来るようになればと考えております。引き続き、訓練を通じて意見交換をしながら、複合災害対策、しっかりと備えていけるような体制を作ってまいります。

**(司会)**

続きまして、F委員からのご意見について、お答えをさせていただきます。

**(回答者)**

F委員からは、自転車利用の安全対策、それから、高齢者にやさしいまちづくりの2点について、ご意見を頂戴致しました。自転車利用について中高生のディスカッション、この目線の違いが対策のヒントになるのではないかとのご意見について、確かにそうだなと思われました。今回、新型コロナウイルス感染症を通じまして、ご高齢の方、それから障害をお持ちの方、ひとり親家庭、子ども達、子育て世帯の方々、いわゆる、色々な課題をもともと抱えているそういったところの、声にならない助けを含め、今まで気が付かなかったような新しい課題なども浮き彫りとなり、色々な課題が私たちに突き付けられていると思っております。そういう課題に対応していく流れを、ご本人だけでなく、少し関わっているけれども、当事者では無い方々、そういった方々の目線も気にしながら、ご意見を聞きながら進めるといった手法というのは、様々な課題に対応するに当たり、参考になると思いました。ありがとうございます。それから、ご高齢者にやさしいまちづくりの観点で、高齢者の方々がやる気を起こしていただけるような活動をというようなご

意見を頂戴しました。ウィズコロナで今は、どうしても引きこもざるを得ないような環境もあろうかと思えます。もう第2波が来ているというようなお声もある中、外出したいのに外出できない状況がまだ続くのかもしれませんが。そうした中、A委員からもご指摘ありましたが、安全安心メール、確認のメールなど、メッセージの発信、それから、気持ちが落ち込まない、ちょっとでもやる気を持っていただけるような何らかの呼びかけ、発信というものについては、今こそ大事だと思っております。そのようなところもしっかり考えながら進めてまいりたいと思っております。

**(司会)**

それでは、最後になります。G委員から頂いたご意見につきまして、お答えをします。

**(回答者)**

G委員から頂きましたご意見について、回答します。区長、それから二人からもご説明させていただきましたが、これにつきましては明日、池袋駅西口駅前広場環境浄化対策ということで実施をさせていただき、具体的な環境浄化にあたりたいと思っております。

**【7 閉会】**

**(司会)**

以上を持ちまして、生活安全協議会・セーフコミュニティ推進協議会・総合高齢社会対策推進協議会の合同協議会を終了させていただきます。